

官をつとめたというスゴイ軍歴の持ち主である。コシュートは「コシチューシコ」とも書くため、ハンガリーの愛国者、コシュート 1802-94と間違えやすい。

ハンガリーの愛国者コシュートは Kossuth と綴り、日本語では「コシュート」ないしは「コッシュート」と記す。フランス二月革命 (1848) 後の革命的情勢の中で、1849年ハンガリーの独立を宣言、執政官になったがロシア軍に敗北して亡命、ミラノで客死した。

2006 中央大学 2/14, 一般, 本学 経済学部(経済学科/公共経済学科) 抜粋

…アンリ 4 世がカトリックの聖職者によって暗殺された後、その王位を継承したのは、ルイ 13 世(在位 1610~43 年)であった。彼は、(ア) 宰相リシュリユー の補佐を得て王権の絶対化を推し進めていく。その結果、フランスの伝統的な身分制議会である三部会は、1614 年に召集・翌年に解散したものを最後として、フランス大革命前夜まで開催されることはなかった。

このような状況を受けて登場し、フランス絶対王政の最盛期を演出したのが「太陽王」ルイ 14 世(在位 1643~1715 年)である。彼が幼くして王位についた後、ブルボン家の王権伸張に抵抗する高等法院や貴族が 1648 年に(B)を起こしたが、宰相マザランによって結局は鎮圧された。その結果、ブルボン家の王権強化という路線が定着することになる。

1661 年には、ルイ 14 世による親政が開始された。彼は国王の権威を高めるために(C)宮殿を建設し、軍備を増強して南ネーデルラント継承戦争をはじめとする侵略戦争を度々引き起こしていく。その反面で、一般の国民は莫大な宮廷費や戦費を賄うための重税に苦しめられていた。なお、ルイ 14 世は 1685 年に(イ) ナントの勅令廃止 に踏み切り、宗教面でも絶対的権力をふるった。

ルイ 14 世の死後、さしものフランス絶対王政も陰りをみせはじめる。次のルイ 15 世(在位 1715~74 年)の時代には、外国貿易の面では順調に発展したが、オーストリア継承戦争や七年戦争への介入によって、多額の戦費の支出を強いられた。このような犠牲にもかかわらず、フランスは七年戦争に敗北してしまう。その講和条約として締結された 1763 年の(D)によって、フランスはカナダやミシシッピ川以東のルイジアナなどをイギリスに割譲し、多くの海外植民地を喪失することになった。それに加え、贅沢な宮廷生活を維持するための莫大な宮廷費もまた、フランス財政を逼迫させていった。(以下割愛)

問 1 空欄(B)~(D)に当てはまるもっとも適切な語句を記入しなさい。

問 2 下線部分(ア)の宰相リシュリユーが、宿敵ハプスブルク家の勢力減退を狙って参戦した戦争の名前は何か。

問 3 下線部分(イ)のナントの勅令廃止がもたらした経済的影響を 40 字以上 50 字以内で記入しなさい。

問 1 (B) フロンドの乱 (C) ヴェルサイユ (D) パリ条約

問 2 三十年戦争

問 3 信教の自由を奪われたユグノーの商工業者が大量に亡命したことで国内産業の発展が阻害された。(44 字)

2013 青山学院大学 2/19, 個別学部日程(A・B方式) 経済

ブランデンブルク選帝侯国は、1415 年以来(a) が世襲した。(a) は 1618 年に(イ) プロイセン公国 を相続し、そのプロイセン公国を 1701 年に王国へと昇格させることで王位を得た。このプロイセン王国を発展させた国王が(b) である。(b) は、「軍隊王」と呼ばれ、徴兵制を採用し軍隊を整備した。その後を継いだのが、「大王」と称される(c) である。(c) は、官僚制・軍隊の整備を進めるとともに、啓蒙思想に基づいて自国の近代化を目指し、(ニ) 啓蒙専制君主 の典型とされる。ただし、その統治の思想は(三) 身分制社会 を前提としており、民主的な社会を目指したものではなかった。

(c) が(四) 王 となった同年、オーストリアでは、(d) が(e) の家領を相続した。これに対し、(d) の継承に不服であった諸勢力との間で戦争が起こった。これが(f) である。プロイセンは、オーストリア領の一部である鉱工業が盛んな(g) 地方を望み、アーヘンの和約でその領有を認められた。

この戦争後、オーストリアは、(五) 15 世紀末のイタリア戦争以来敵対していたフランスとの協調関係に転換した。これによって、プロイセンは外交的に孤立することとなった。そのため、機先を制するためにプロイセンが先制攻撃をすることで再び戦争が始まった。プロイセンは、(六) ヨーロッパ内ではほとんど味方がなく苦戦したが、海外植民地でフランスが敗れたことなどが原因で、最終的には長期にわたる戦争を戦い抜き、強国の地位を確かなものにした。

他方で、プロイセンは、オーストリア、ロシアとともに、1772 年、1793 年、1795 年の三度に渡り、(h) を分割し消滅させた。

問 1 (a)~(h)に適語を記せ。(原問では選択式である。問 2 以下も同様。)

問 2 下線部分(1)について、プロイセン公国のあった地域を 13 世紀にカトリック化した騎士団は何か。

問 3 下線部分(2)について、啓蒙専制君主とされない人物 を一つ選べ。

① エカチェリーナ 2 世 ② ルイ 9 世 ③ カルロス 3 世 ④ ヨーゼフ 2 世

問 4 下線部分(3)について、この当時のプロイセンにおける将校の多くを占めた土地貴族は何と呼ばれるか。

問 5 下線部分(4)について、何年のことか。選べ。① 1648 年 ② 1740 年 ③ 1748 年 ④ 1756 年

問 6 下線部分(5)について、この結果、オーストリアとフランスは婚姻関係を結ぶが、フランス王太子と結婚したのは誰か。

問 7 下線部分(6)について、外交的には孤立を深めていたプロイセンだが、プロイセンを支援していた国を記せ。

問 8 (h)を分割することに反対し蜂起を起こしたのは誰か。

問 1 a) ホーエンツォレルン家 b) フリードリヒ・ヴィルヘルム 1 世 c) フリードリヒ 2 世 d) マリア・テレジア

e) ハプスブルク家 f) オーストリア継承戦争 g) シュレジエン h) ポーランド 問 2 ドイツ騎士団 問 3 ②

問 4 ユンカー 問 5 ② 問 6 マリー・アントワネット 問 7 イギリス 問 8 コシュート

2004 関西学院大学 2/2, A 日程, 本学・地方 経済学部 抜粋

ポーランド王国は、1241 年に(三) モンゴル軍 によって侵略を受けた。その後、ドイツ騎士団の進出に対抗して、一時は(四) 隣国 との同君連合国家を形成し、ヤゲウォ朝のもとで繁栄したが、王朝断絶後になると、大貴族たちによる選挙王制体制下でしばしば外国の干渉を招き、最後はロシア・プロイセン・オーストリアの三国によって(五) 国家分割 の憂き目を見た。

問 3 ③このモンゴル軍を率いた人物はだれか。 a. フラグ b. モンケ c. ハイドウ d. バトウ

問 4 ④この隣国はどれか。 a. エストニア b. リトアニア c. ラトビア d. フィンランド

問 5 ⑤ 3 度にわたるポーランド分割が完了した時期はどれか。

a. 18 世紀初期 b. 18 世紀中期 c. 18 世紀末期 d. 19 世紀初期

問 3 d 問 4 b 問 5 c